

ASEANにおける観光サービス貿易促進セミナーを開催



アセアンの統合推進においては、サービス貿易への理解と更なる自由化が重要であることを踏まえ、日本アセアンセンターではサービス貿易に焦点をあてた事業を立ち上げ、2016年から取り組んでおります。本事業は、特に経済全体の重要な競争力の厳選である消費サービスを取り上げ、複数年にわたる地域的枠組みの事業として、7つのサービス分野における調査報告書を作成、アセアン諸国の政府関係者やビジネスパーソンを対象としたセミナー及びワークショップを実施するというもので、2016年から現在までに6分野にわたって3回のセミナーが終了しております。

今回は最後の分野、観光サービスの自由化というテーマで、11月30日から12月2日までタイ国ホアヒンにて開催いたしました。

1. 概要

プロジェクト名	2017年度 サービス貿易促進事業	
事業	セミナー、ワークショップ	
主催者	日本アセアンセンター	
共催者	タイ商業省貿易発展局;タイ国スポーツ観光省	
開催日時	2017年11月30日(木)~12月2日(土)	
開催場所	セミナー	ノホテルホアヒンチャアームビーチリゾート&スパ、タイランド
	ワークショップ	リージェントチャアームホスピタリティスクール 他
出席者	タイ商業省貿易発展局;タイ国スポーツ観光省、アセアン各国商業省、観光省他関連省庁及び関連機関、太平洋アジア観光協会、タイ及び日本からの民間企業、ホアヒン・チャアム観光協会等アセアン各国の政府関係者、民間企業、アセアン事務局などから約52名。	
リソースパーソン	千葉大学 法政経学部 石戸光教授	

2. 内容

11月30日(木)1日目

始めに、日本アセアンセンター事務総長藤田正孝より開会の辞をのべ、ASEAN 設立 50 周年を迎え、財の貿易においては自由化が推進されているが、ASEAN 域内のサービス貿易における自由化への加速が鈍く、センターが独自に執筆したバックグラウンドペーパーに基づいて、観光におけるサービス貿易の統合にむけた政策提言を行う、といったセミナーの目的について説明。

続いて、タイ国スポーツ観光省国際部部長、Dr. Jirapon Prommaha(ジラポーン・ポーマナー)^①による挨拶と基調講演が行われた。

また、ホアヒン・チャーム観光協会事務局、Dr. Pornrawee Sealuangsawat(ポーンラウィー・シアルーングサワット)^②から、地元産業の魅力などにも触れホアヒン・チャームの開催を歓迎する発言があった。

さらに、ジャカルタに本部を置くアセアン事務局、サービス貿易チーム Ms. Yunita Ruchyat(ユニタルチャット)^③よりアセアン域内の統合について現状報告が行われた。

民間を代表して、タイ国のコスメ&スパで有名なDivana(ディバーナ)のCEO兼共同出資者の Mr. Pattanapong Ranurakasa(パタナポン・ラヌラカサ)氏とMr. Taneth Jiraswakedilok(タネ・ジラワケディルーク)氏^④が起業した動機、近年の付加価値をつけたスパ産業サービスについてプレゼンを行った。

また、日本企業を代表して、株式会社サイトラベルサービス代表取締役社長大畑 貴彦氏^⑤が観光分野における日本企業のアジア進出について説明。

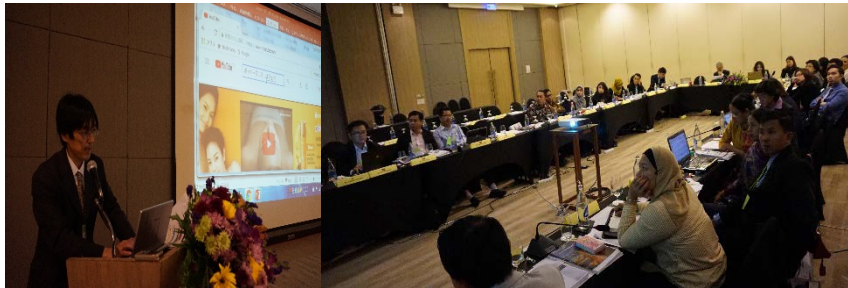
太平洋アジア観光協会(PATA)の国際パートナーシップ部、部長Ms. Halona Padiachy(ハローナ・パディアシイ)^⑥による国際観光協会の視点からみた情報も参加者に共有された。

千葉大学法政経学部 石戸 光教授^⑦による基調講演では、観光分野におけるサービス貿易の統合と自由化にむけたアセアン各国の現状評価について考察するよう参加者に依頼があった。



12月1日(金) 2日目

当センター観光交流部長並びに、貿易投資部長代理によるセンターの事業内容の報告の後、ASEAN10カ国の参加者からは各国の観光サービス産業についてのプレゼンが行われた。石戸光教授から提案のあった現状評価について活発な意見交換がおこなわれた。ASEAN域内における観光セクターへの直接的かつ間接的なインパクトはなにか、また、観光産業が経済的な効果をもたらす付加価値とはなにか、などについて積極的に議論した結果、観光産業は世界の厚生と経済発展に貢献する最も重要な産業であると合意された。地域、国、ASEAN域内において、観光産業のリスクを最小限にし、旅行支出の最大限の効果を生み出す付加価値にむけて、レベルを引き上げるための政策評価が話し合われ、現状の自国評価の平均は10点満点中、6.37であった。今後の努力次第では、域内の地方都市や国内の旅行者数の増加、旅行者1人当たりの支出増加において改善の余地を残すという結論に達した。



最後に、日本アセアンセンター事務総長藤田正孝により、観光産業がアセアン及び世界の経済発展の重要な産業の1つであり、ASEAN域内の観光サービス貿易へ自由化、及び付加価値を付ける為にどのようにするか等について問題提起があり、今後、各国にて話合われることとなった。

今回で第4回目となるセミナーをタイ国商業省ならびにスポーツ観光省の協力のもと、タイ国ホアヒン・チャアームで開催できたことに感謝の意を表され閉会した。



＜12月2日(土) 3日目＞

リージェント チャーム ホスピタリティスクールの視察を行い、Ms. Nartnadda(ナッタナ)校長より多様なカリキュラムと活動内容の説明をうけた。

さらに、タイの王朝ラーマ 6 世が避暑地として利用した Mrigadayavan (マルカタヤワン) 宮殿の視察、オーガニック商品を奨励する王室のプロジェクト “Chang Hua Man” と(チャンフアマン)及びシケダマーケットといった観光資源の視察も行われた。



＜フォローアップ活動＞

ディスカッションペーパーに基づき、今回セミナーで議論された内容を加味した上で、観光サービス貿易における最終的な政策提言を、日本アセアンセンターの公式 WEB で公開する予定。